

## 編集後記

2002年をもちまして、4年間の編集委員長を退くことになりました(次の号までは、次期編集委員会への引き継ぎをしながらやることはやりますが)。

まずは、執筆者のみなさんの御協力、応援して下さった読者のみなさんに本当に感謝いたします。執筆者のみなさんは原稿料なしのボランティアの執筆にもかかわらず、締切に遅れる方はほとんどいませんでした。惑星科学はその対象から手法までかなり幅の広い学問なので、幅広い読者にわかりやすい記事になるようにということで、査読は厳しくし、修正要求もどんどん出しました。しかし、執筆者のみなさんはその(ときとしてかなりの)修正要求にも積極的に協力していただきました。通常、編集作業は原稿のとりたてに多くの時間を割かれ、修正要求にはいやな顔をされるものだと思うのですが、「遊星人」ではそれがなかったというのは、日本惑星科学会が小さな学会ということもあって、みんなで一緒にいい学会誌にしようという気持ちを共有できたからなのかなと思います。その甲斐もあって、「遊星人の記事は他学会の学会誌に比べて、わかりやすく面白い」という感想を多くの読者のみなさんからいただきました。それがまた励みになりました。

編集委員長として、至らぬ点がたくさんあり、執筆者のみなさんや読者のみなさんに数々の御迷惑をおかけしたと思いましたが、僕にとっては遊星人の編集は楽しい仕事でした。自身の研究にとっても、興味の枠が広がり、とても有意義でした。

今後は一読者として「遊星人」を応援していきたいと思います。あらためて、ありがとうございました。

井田 茂

編集委員

井田 茂 [編集長] 城野 信一 [編集幹事]

荒川 政彦 飯島 祐一 加藤 工 北島富美雄 倉本 圭 小林 憲正 小林 直樹 高木 靖彦 高田 淑子  
田近 英一 出村 裕英 中村 智樹 中村 良介 平田 岳史 松島 弘一 米田 成一 渡部 潤一

2002年12月25日発行

日本惑星科学会誌 遊・星・人 第11巻 第4号

定 価 一部 1,750円 (送料含む)

編集人 井田 茂 (日本惑星科学会編集専門委員会委員長)

〒152-8551 東京都目黒区大岡山2-12-1 東京工業大学大学院理工学研究科  
地球惑星科学専攻

印刷所 〒135-0011 東京都江東区扇橋3-5-10 星光社

発行所 〒107-0052 東京都港区赤坂4-1-32 赤坂ビル2階

株式会社イーサイド登録センター内 日本惑星科学会

e-mail : staff@wakusei.jp

TEL : 03-3585-8161 / FAX : 03-3585-8162

(連絡はできる限り電子メールをお使いいただきますようご協力お  
願いたします)

本誌に掲載された寄稿等の著作権は日本惑星科学会が所有しています。

複写される方へ

本誌に掲載された著作物を個人的な使用の目的以外で複写したい方は、著作権者から複写権等の行使の依託を受けている次の団体から許諾を受けて下さい。

著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、直接日本惑星科学会へご連絡下さい。

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル 学術著作権協会

TEL: 03-3475-5618, FAX: 03-3475-5619

E-mail: kammori@msh.biglobe.ne.jp

# 地球惑星科学関連学会 連絡会ニュース No.26 (2002年10月)

[1] 緊急報告! 地球惑星科学関連学会2003年合同  
大会日程・会場の変更のお知らせ

[2] 2002年度地球惑星科学関連学会長懇談会(拡大  
連絡会) 議事録

今号は、2003年合同大会の日程・会場の変更につ  
いて、緊急にお知らせします。

## [1] 緊急報告!

地球惑星科学関連学会2003年合同大会  
日程・会場の変更のお知らせ

## 1. 変更内容

●会期: 2003年5月26日(月) - 29日(木) 4日間

●会場: 幕張メッセ 国際会議場 (全館)

●共催・協賛学会数19学会

●費用:

講演投稿料(通常) 3,000円

(早期) 1,500円 -変更無-

事前登録参加費(一般) 10,000円

(学生) 7,000円

当日登録参加費(共通) 12,000円 -変更無-

一日参加費(事前) 5,000円

(当日) 6,000円

## 2. 変更の経緯と理由

(1) オリンピックセンター会場予約状況

・口頭発表講演会場

2003年大会用に確保できたのは、例年の60%で  
あった。これは、安価で会場数が豊富なオリンピック  
センターが世間一般に認知され、利用者増加の傾向

にあるためと思われる。今年も、当初予定の2003年  
大会開催初日(5/18)の10ヶ月前に遅れることなく早々  
に予約手続きに赴いたが、既に、多くの部屋は12ヶ  
月前から優先して予約可能な青少年団体の使用で埋  
まっていた。第5日目の5/23に至っては、フルで使用  
できる口頭会場が1つのみであったため、やむなく5  
日間から4日間へ開催期間を短縮するほかない状況  
であった。開催日程をずらしても状況に変わりなく、ま  
た2004年以降も状況が好転することは期待できない。

・ポスター発表会場・展示会場

独立法人化後のセンターは利用システムが確立さ  
れた反面、融通が利かなくなった。例年ポスターセッ  
ションを行っている国際交流棟の廊下、レセプション  
ホール、リハーサル室については、本来の使用目的  
外という理由で、2004年以降はポスター・展示での  
使用は認められないことになった。

(2) 他会場検索へ

以上のオリンピックセンターの予約状況、及び今後  
の見通しを鑑みて、2003年大会については、プログ  
ラム局において、この少ない講演会場で合同大会を  
行う手立て(ポスター発表1日2交代制等)を検討する  
こととした。一方、2004年以降のために早急に別の  
会場を検討する必要があると判断した。検索条件と  
して、

①講演会場(200人部屋3つ、100人部屋5つ、5  
0人部屋2つ)10会場とポスター会場、できれば  
展示会場の確保できること。

②会場費が安いこと。

③継続的に安定して確保できること。

④十分な宿泊施設が確保できること。

を主とした。

(3) 幕張メッセ国際会議場に決定へ

検索の結果、東京の「一ツ橋ホールと学士会館」の  
2会場セット案と千葉の「幕張メッセ」案が残り、8/13

に開かれた運営機構コアメンバー会議で検討を行った。他の会場に比べて、十分な講演会場がとれること、ポスターセッション・展示に広い場所が確保できること、及び2004年以降についても早い時期に確保できること等、幕張メッセ国際会議場で開催することのメリットが大きかった。幕張メッセ会場で問題となる点は、会場費及び設備使用料が高くなることであったが、会場側との交渉の結果、開催が実現できる予算内で落ち着いた。一方、各大講演会場には幕張メッセ側の係員が常時配置されることにより、大会運営に関わる費用のある程度の削減が期待される。又、実際に総務局による会場視察の結果からも幕張メッセ案が適当と判断された。

会場検索は、2004年以降の会場確保が目的であったが、2003年大会の会場についても、このままオリンピックセンターで開催し、少ない会場をやり繰りするために時間・労力を使うことより、幕張メッセへ会場変更し、新会場立ち上げのために尽力し、盤石な形で次へ繋げたいという意見で一致した。

以上のことから、2003年大会より会場を変更し、幕張メッセで、合同大会を開催することを、運営機構として決定し、8/26連絡会会長・幹事会報告検討の後、9/20連絡会の承認を経て、正式に会場・日程を変更する運びとなった。

### 3.幕張メッセで開催する利点

#### (1) 安定した会場確保が実現。

予約に制限がなく、何年先でも予約可能。

2004年は5月連休後、2005年は連休前に仮予約済。

#### (2) ポスター会場の改善

コンベンションホールの1/2 (695 m<sup>2</sup>)をポスターセッション会場に充てる予定で、講演会場が少ない分をポスターで吸収カバーできる広さが十分確保できる。分散していたポスターセッション会場を、同建物内の1ヶ所に集約できる。明るさも改善される。(張り出し可能数 現:240→280~350枚へ)。

#### (3) 団体展示ブースの改善

2Fの中央ロビー及びホワイエに例年と同等数確保する予定である。各講演会場・ポスター会場間への人の流れの動線上に位置するので、多くの参加者に関覧してもらえると期待している。

#### (4) 参加者へのサービス向上

国際会議場の全館を合同大会で占有できるため、制限なく、必要な場所へ会場案内やポスター看板等掲示ができる。

宿泊施設、飲食施設が周辺に多数あり、参加者の多様なニーズに対応可能である。高価なイメージだが、幕張メッセ利用者特別割引があり、宿泊施設は一般向け¥6,000、学生向け¥3,500程度で提供できる予定である。

保育室は、会場に隣接しており、千葉県認定施設が利用可能である(無料英会話教室付き)。

#### (5) 千葉県からの開催支援

千葉県では県内で開催する会議を支援しており、資金(審査制)・サービス面のバックアップが見込まれる。

- ・大会期間中のボランティア手配(会場内・周辺施設案内など)。
- ・ディズニーランド・シー割引券発行。
- ・千葉県物産お土産コーナー設置。
- ・駅前「幕張プレナビジョン」表示・広報誌掲載。
- … etc.

#### (6) 運営機構負担軽減

オリンピックセンターでの開催時は、事前にポスターボード、展示ブース、講演会場へのAV機器等設置・借り出し・撤去の手配を全て総務局で行わなければならない。大会期間中も、AV機器の不具合等の対応に迫られた。また、宿泊(特にユースタイプ)管理は煩雑で、多くのアルバイト投入が必要だった。更に、センターは公共施設のため、規則制限が多く、参加者

の要望とセンターのとの間での調整に多大な労力を要した。しかし、幕張メッセは、民間企業であるので、会場費コストは高くなるが、大会前の各手配等の多くを一任することができる。こちらのニーズに柔軟かつ好意的で、同じ立場でスムーズな大会運営への協力を得ることができるため、精神的・労力的に運営機構の負担が軽減できると思われる。

<最終検討対象会場一覧と検討結果>

場所		東京都			
施設名	東京国際フォーラム	日本青年館	一ツ橋ホール	学士会館	
最寄駅	JR東京駅 徒歩5分	JR信濃町駅 徒歩7分	東西線・竹橋駅 徒歩5分		
会場数	口頭	×8 (100人以上2のみ)	△8	△6	△5
	ポスター	○	△	×	×
	展示	○	△	×	×
	予約	3ヶ月前交渉可	宿泊施設利用ならいつでも可	6ヶ月前	1年前
会場費 (千円/1日)	2,180	1,283	699	770	
宿泊施設	近辺にホテル多数有り	ツインと和室のみ	近辺にホテル多数有り	近辺にホテル多数有り	
備考	交通至便 100人以上の講演会場が少ない。付帯設備も含めて全般的にコストが高い。講演会場が足りないのので、近くに第2会場が必要。		徒歩圏内である2会場での抱き合わせ使用を検討。それでもポスター会場が無いので他階の宴会場転用の交渉か、他施設検索が必要。		

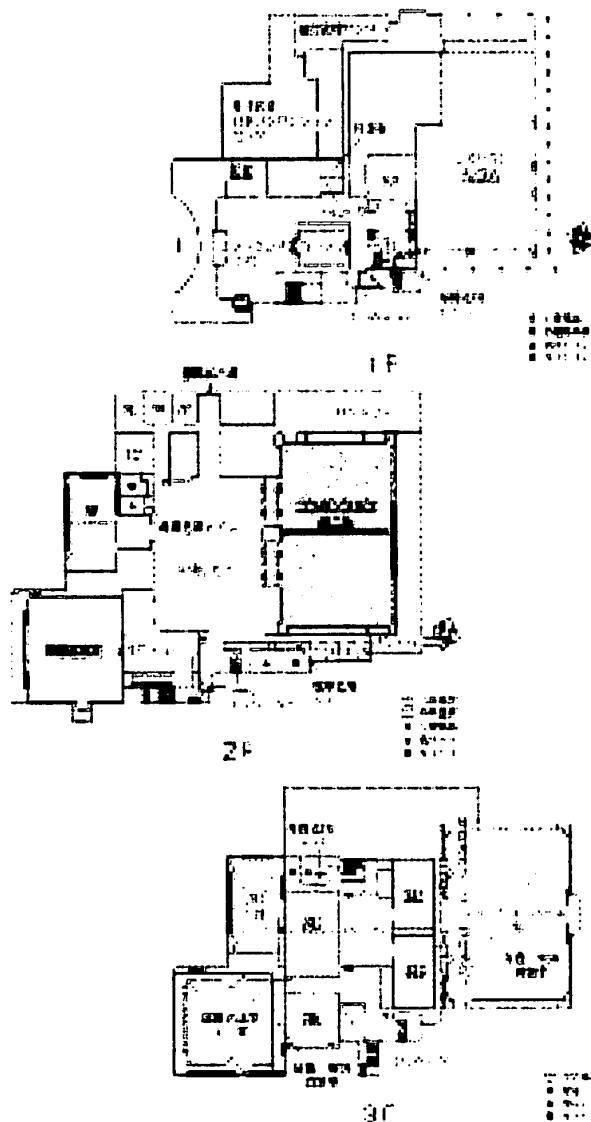
場所		千葉県		
施設	OVTA	幕張メッセ国際会議場	幕張セミナーハウス	
最寄駅	JR京葉線・海浜幕張駅 徒歩8分	JR京葉線・海浜幕張駅 徒歩5分	JR京葉線・新習志野駅前	
会場	口頭	△7	△10-12	×9 (100人2、50人7)
	ポスター	△	○	×

会場	展示	△	○	×
	予約	4ヶ月前	いつでも可	いつでも可
会場費 (千円/1日)		706	2,070	1,590
宿泊施設		有	近辺にホテル多数有り	有り
備考	コストが低い。無料の備品が充実。部屋数が不足なので第2会場(向かいに放送大学)を探す必要がある。	コストが高い。交渉余地有り。講演会場がやや少ないが、1施設でほぼ開催可能。全体的に見て使い勝手が良い。	収容人数が多い部屋が少ない。職員が会議開催に慣れていて、利用しやすい。補助施設として適。	

\* 埼玉・神奈川県 条件に合う会場無し。

4.運営機構からのお願い

(1)費用設定についてご理解を



今回の参加費は、事務局、情報局の経費を更に節減、JCOM社へ委託している業務の削減などの経営努力を行った上で、合同大会を発展維持させる為に必要な費用を参加者の方々にご負担いただくという趣旨に則って算出しております。

—コマ数・発表論文数比較 口頭発表会場(定員別)—

2002年大会実績 (センター)			2003年大会見込 (メッセ)		
定員	会場数	コマ数	定員	会場数	コマ数
300	1	19	400	1	16
250	1	10	300	1	16
200	2	30	200	2	32
160	4	51	160	1	16
120	3	42	140	2	32
80	4	57	130	1	16
60	1	2	110	1	16
40	1	9	70	3	48
合計	17	220		12	192
論文数(実績)		116	論文数(見込・1コマ6)		1152
		7			

—ポスター数比較 ポスターセッション会場—

2002年大会実績 (センター)		2003年大会見込 (メッセ)	
国際交流棟廊下	199	コンベンション ホール 1/2	1日280 (最多 350)
リハーサル室	649		
5日間合計	848	4日間合計	1120

参加者の負担を考え、参加費は極力増加させない方針であり、しかも、値上げによって、参加者数の減ってしまえば、黒字財政の維持は困難です。そのような事態を避けるためにも、必要かつ最小限の増額で設定しております。是非皆様のご理解をお願い致します。

尚、総会等に使用される部屋の使用料に関しては、会場の使用料の実費相当分を申し受けたいと思います。合わせて各学会のご理解が得られれば幸いです。

(2) 大会継続のために学会員への参加呼びかけ

1991年以来毎年開催されております本大会はこの

2003年大会で13回目を数えます。年々論文投稿数・参加者数も増え、各学会員の皆様のご協力、ご理解のお陰で、研究発表の場、情報交換の場として発展してまいりました。改めて御礼申し上げます。

「地球惑星科学」という研究分野が、高度に専門化された諸研究分野の成果の上に成り立つ総合科学として、更なる発展を図るために、主催者一同、会場を変更し心機一転、より内容の充実した確固たる大会へ発展させていきたいと考えております。

各学会におかれましては、より一層の各学会員の方々への合同大会参加への呼びかけの徹底を何卒宜しくお願い致します。更に、合同大会は広く門戸を開いております。関連する組織・研究プロジェクト・研究機関の積極的なご参加もお待ちしております。

2003年合同大会 ホームページ:

<http://epsu.jp/jmoo2003/>

[2] 2002年度地球惑星科学関連学会長懇談会(拡大連絡会)議事録

日時: 5月30日(木) 17:00-18:00

場所: 国立オリンピック記念青少年総合センター,  
C403室

出席者:

阿部豊(東大:日本惑星科学会, 運営機構)

青木元(気象研:日本地震学会,

連絡会ニューズレター担当幹事)

荒木徹(地球電磁気・地球惑星圏学会)

有馬眞(横浜国大:日本岩石鉱物鉱床学会)

家森俊彦(京大:地球電磁気・地球惑星圏学会)

伊藤谷生(千葉大:地質学会)

今井亮(東大:資源地質学会, 連絡会庶務担当幹事)

岩上直幹(東大:運営機構)

浦辺徹郎(東大:資源地質学会, 連絡会会長)

掛川武(東北大:日本岩石鉱物鉱床学会)

倉本圭(北大:日本惑星科学会)  
 鷲谷威(国土地理院:日本地震学会)  
 里村幹夫(静岡大:日本測地学会)  
 篠原雅尚(東大:日本地震学会,  
 連絡会庶務担当幹事)  
 清水洋(広島大:日本地球化学会)  
 志茂久男(国土地理院:日本測地学会)  
 杉田倫明(筑波大:日本水文科学会)  
 田近英一(東大:日本惑星科学会)  
 谷上美穂子(運営機構)  
 網川秀夫(東工大:地球電磁気・地球惑星圏学会)  
 中村正人(宇宙研:運営機構)  
 浜野洋三(東大:運営機構)  
 原辰彦(建築研:運営機構)  
 中田節也(東大:日本火山学会)  
 野津憲治(東大:日本地球化学会)  
 藤井良一(名大:地球電磁気・地球惑星圏学会)  
 丸井敦尚(産技総研:日本地下水学会)  
 水谷仁(宇宙研:日本惑星科学会)  
 宮本英昭(東大:日本応用地質学会)  
 山野誠(東大:日本地震学会)  
 塚本尚義(東工大:日本鉱物学会)  
 和田秀樹(静岡大:日本地球化学会)

以上32名

## 配布資料

1. 議事次第
2. 第24回地球惑星科学関連学会連絡会議事録(案)
3. 地球惑星科学関連学会2002年合同大会
4. 「第13回ゴールドシュミット国際会議」倉敷開催

## 議事

### 1. 前回議事録確認(浦辺連絡会会長)

第24会連絡会(2001年9月14日開催)議事録について、(案)の通り承認された。

### 2. 4月の事前連絡会の中止について(浦辺連絡会会長)

浦辺連絡会会長より、以下のような事情説明および提案があり、提案の通り承認された。

4月の連絡会は今年度に限り中止ではなく、2003年以降も行なわず、毎年合同大会開催時と9月の年2回開くことが確認された。

「標記会合については例年4月頃開催し、LOC側より合同大会の進捗状況報告を受けていました。しかし、今後は4月の事前会合を中止し、合同大会期間中に開催される連絡会に吸収したく存じます。もしご異議がある場合はお知らせ下さい。

これまで合同大会の前に会を実施してきた主な理由は、連絡会の管理する会計を年毎に交代するLOCに預ける必要があったからです。しかし、昨年度より合同大会が「地球惑星科学合同大会運営機構」によって継続的に組織・運営されるようになり、かつそれを受け、昨年9月の連絡会で連絡会会計運営方法の改善が議決され、連絡会の会計を運営機構に任せることになりました。つまり4月に会を開いて会計を預ける必要が消滅したわけです。

進捗状況については大幅に充実したホームページで逐次公開されており、これについてもわざわざ集まって報告を受ける必然性は無いといえます。(以上)」

## 3. 2002年合同大会報告

### 3-1. 概要(運営機構代表:浜野)

2002年合同大会実施状況について、資料に基づいて説明があった。

共催・協賛学会は19学会、後援団体は20団体、事前登録者数は2271名、当日登録者数は5/30時点で496名、投稿論文数は2016件など、大変に盛況であり、2500部印刷したプログラムが不足し、当日登録者の一部に配付できない事態も発生したことが報告された。団体展示は18団体20ブースの利用があった。また、初日に行なわれた青少年セミナーにも200名以上の参加があり盛会であった。

報告に対し連絡会会長から謝辞が述べられた。事前登録者数、投稿論文数、参加者数など、順調に伸

びており、問題点の多くが解消されている。しかし依然以下のような問題点があることが指摘された(「」は運営機構からの回答)。

- ・団体展示について、会の直前に請求があり、支払い期限がきわめて短く、国立大学では対応が困難「請求方法、支払時期などについては相談あれば柔軟に対応する」
- ・プログラム編成作業が極めてタイトスケジュールであり、改善を求めたい「締め切りを遅らすことで一般講演申込者に便宜を計った結果であるが、次年度改善できる点は改善する」
- ・PCプロジェクターの使用が多くなったが、OHPの一部には解像度の悪い場合があった「指摘を受け、会期中から機種を入れ替えた。会場でも毎年改善を進めている」
- ・アルバイト学生の一部に十分な質でない場合があった「会期初日の教育で対処している」
- ・プログラムの印刷・製本方法について新聞方式からキャベツ方式に変えるよう提案があった「今後検討する」
- ・合同大会中に学会の総会などを設定する都合上、セッション日程を早く(前年の秋に)確定して欲しい「以前は講演募集前にセッション日程を決めていたが、実際の投稿数とのアンバランスの調整、不公平を無くすために、講演申込後にセッション日程を調整することになったが、レギュラーセッションについては、各学会の総会等の日程にも配慮したスケジュールを検討する」
- ・合同大会中に学会の総会などに参加する場合でも参加登録料が高額すぎる「そのような事態にも配慮し、今年度から一日券の制度も設けた。それ以上のことは各学会で対応して欲しい」
- ・学会受け付けの場所が不便であり、利用しにくいので、セッション会場またはポスター会場などから行きやすいようにしてほしい「次年度以降検討する」

### 3-2. 財務(運営機構:中村)

5/30時点での収支状況が説明された。現時点の推移では140万円程度の黒字となり、連絡会の基金からの繰り入れの心配はないことが報告された。

### 3-3. 総務(運営機構:岩上)

合同大会会場内で急病人があり、組織委員会を通さずに病院へ搬送されたことに対し、会場であるオリンピック記念青少年総合センターより、運営機構に事故等に対応できる体制を整えるように申し入れがあったことが報告された。次年度からは各学会から対応できるように人をだして体制を整えるよう提案され了承された。

### 4. 2003年合同大会について(運営機構代表:浜野)

2003年は6月30日?7月11日の日程でIUGGが札幌で開催されるので、合同大会の日程については、第1案として、5月18日?23日、第2案として、5月25日?30日を考えており、初日(日曜日)には青少年セミナーを開催する。会場については、2001年大会と同様に独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センターを考えているが、予約受付が10ヶ月前からであり、8月にならないと確定しないことが報告された。

【編集注】2003年合同大会の日程・会場は、本号ニュースの[1]で報告されたように変更・確定された。

2003年度のプログラム委員長は原辰彦氏、情報委員長は竹内希氏が引き受けて下さり、運営機構の体制については、現体制発足から3年目の2003年までは引き受けていただけることが報告された。

### 5. ゴールドシュミット国際会議について(日本地球化学会:野津)

2003年9月7日?12日に倉敷で開催が予定されている第13回ゴールドシュミット国際会議の準備状況について資料が配付された。

### 6. 次期連絡会幹事の選出



浦辺連絡会会長から、日本地球化学会より、清水洋氏が次期会長に推薦され承認された。また、連絡会幹事会については以下のように推薦されそれぞれ承認された。

会長：清水 洋(日本地球化学会)

庶務渉外担当幹事：

鍵 裕之(日本地球化学会)

今井亮(資源地質学会・留任)

会計監事：

宮本英昭(応用地質学会)

近藤昭彦(水文・水資源学会・留任)

ニュースレター担当幹事：青木元(日本地震学会・留任)

今回日本地球化学会より連絡会会長が選出されたことから、これまで会長を引き受けていない学会は解消された。来年度の連絡会会長については日本地震学会から選出の方向で検討することになった。

## 7. 次回連絡会会合の日程

9月ごろに行なう予定。

## 8. その他

8-1. 2002年合同大会について、下記のような意見が出され、浦辺連絡会会長から運営機構に伝達されることになった。

- ・ポスター会場がカルチャー棟となって不便となった。展示とは別の建物となり、展示ブースでの売上が昨年に比べ激減した例もある。
- ・ポスターのパネルのサイズがアナウンス通り確保できていない。
- ・午前のセッションが延びたために、午後のセッション開始時間にアルバイトが揃わない。
- ・他のセッションとの兼ね合いで、事前の人数予測が大きすぎて部屋に収容しきれないセッションがあった「レギュラーセッションについては、コンピューターにアンケートを行ない、次年度のコンピューターに適切な部屋のサイズなど引き継ぐようにする。また、今年度もアルバイトが参加状況について調査を行なっている。」

8-2. 2003年度の合同大会への各学会の共催・協賛の意思表示については、次回連絡会までの間に、運営機構から各学会に対して問い合わせを行なってもらうことが確認された。

## 9. 各学会の2002年度行事予定について情報交換を行った。

### [今後の行事予定]

地球惑星科学関連学会2003年合同大会

2003年5月26日～29日

幕張メッセ国際会議場(千葉市)

IUGG2003年総会

2003年6月30日～7月11日, 札幌市

第13回ゴールドシュミット国際会議

2003年9月7日～12日, くらしき作陽大学(倉敷市)

※各学会の行事予定については、<http://epsu.jp/jmoo/calendar.html>を御参照ください。

地球惑星科学関連学会連絡会ニュース 第26号

2002年10月8日発行

発行：地球惑星科学関連学会連絡会

連絡会幹事会会長 清水 洋

編集：地球惑星科学関連学会連絡会

連絡会幹事会ニュースレター担当 青木元

# 学会誌原稿作成の手引き

日本惑星科学会編集専門委員会

## 1. 原稿の様式

### ○はじめの投稿:

委員長宛 ← プリントアウトした原稿2部  
[Post Script ファイルでもよい]

### ○最終稿:

編集幹事宛 ← プリントアウトした原稿2部, テキスト  
ファイル (Wordも可).

それと可能ならば画像ファイル. フォーマットはpict, tiff, epsが望ましい.

- ・jpeg, gif, psはなるべく避ける.
- ・ファイル名はローマ字を用いる.
- ・校正ゲラ送付先の住所, 電話番号, ファックス番号, メールアドレスを付記すること.

委員長宛 ← プリントアウトした原稿1部

## 2. タイトル

記事のタイトルは15字以内. また, タイトル, 筆者名及び所属を和文・英文両方で付す.

## 3. セクション

セクションは1., 2., ..., サブセクションは1.1, 1.2, ..., 細区分は(1), (2), ..., の記号を頭にして, 左寄せ, 行末改行とする.

- ・文中での分けは(a), (b), (c)を用いる.
- ・これら記号はすべて半角文字を用いる.
- ・セクションタイトルは12文字以内で簡潔にすること.
- ・セクションタイトルとして“はじめに”, “おわりに”, “まとめ”は避ける.

## 4. 述語

専門用語はなるべく避けるか, 十分な説明をつける. 特に, 対応する日本語がある場合, 英語・英略語は使わない.

## 5. 字体

数字, 英字は半角とする. また(,), [, ], :, ;など区切り記号も半角を用いる. 本文は立体(ローマン), 数字はイタリックで組む.

## 6. 単位

使用単位については特に統一しない. ただし, gcm<sup>-3</sup>, cms<sup>-1</sup>などとはせず, g/cm<sup>3</sup>, cm/sとする.

## 7. 句読点

句読点は全角の“,”, “.”を用いる.

## 8. 図, 表

文中での図表の引用は“図1”, “図2”の形をとる. 最終稿送付に際して, 図表, 写真の刷り上がりの時の大きさ, 位置を朱記指定のこと. 他の文献から図表を転載する場合は予め編集委員会に照会のこと.

### 写真投稿のガイドライン:

- ◇写真の場合:なるべくL版サイズ(写真屋で普通に焼いた時のサイズ)かそれ以上の大きさで鮮明なもの.
- ◇画像ファイルの場合:印刷時実寸で350dpi相当以上のもの. フォーマットはpict, tiff, epsが望ましい. jpeg, gif, psはなるべく避ける. jpegは画質がもともと低くなりがちで, gif, psは版組ソフトが認識してくれない場合があるため.

## 9. 脚注

脚注は“1”などの記号をつける.

## 10. 文献の引用

引用文献は重要なものに限る. 目安として10項目以内にする.

本文中での引用は[1], [2]の形で通し番号をつけ, 論文の末尾に一括してリストを載せる.

文献リストは題名は省略し, 3人以上の著者は et al. と表記する.

雑誌名などは一般に使われる略称を用い, ページ数は始めだけでよい. 以下の形式に従う.

### 参考文献

- [1] Wakusei, T. et al., 1989, Astron. Astrophys. 220, 293.  
[2] 惑星太郎, 1993, 天文月報 86, 186.

## 11. 原稿の送付先

投稿時の送付先は 編集委員長

〒152-8551 東京都目黒区大岡山2-12-1

東京工業大学大学院理工学研究科地球惑星科学専攻  
井田 茂

FAX: 03-5734-3538

e-mail: ida@geo.titech.ac.jp

最終稿の送付先は 編集幹事

〒464-8602 名古屋市千種区不老町 理学部E館気付  
名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻  
城野 信一

FAX: 052-789-3013

e-mail: sirono@eps.nagoya-u.ac.jp